

日 時：平成27年7月14日（火）
場 所：多目的ホール、自室、自室
指導者：T1、T2、T3、T4、
T5、T6

1 題材名 「朝の活動・朝の会」

2 目 標

- (1) 登校準備を通して学校の始まりを意識し、学習への期待感をもつ。
- (2) 自分の得意な動きを生かしながら返事や係活動に取り組む。
- (3) 友達や教師の様子に関心をもち、視線を向けたり働きかけを受け入れて関わろうとしたりする。

3 生徒と題材

(1) 生徒について

本グループは、高等部2年男子2名、女子1名、3年男子2名、女子1名の計6名である。全員が独立行政法人国立病院機構あきた病院の重症心身障害児（者）病棟に長期入院しており、この内1名を除いて過年度卒業生である。6名の内4名は学習場所に制限がなく学習室に集まって朝の会を行っているが、2名は常時仰臥位で人工呼吸器を使用し、感染症にも特段の配慮が必要であるため、自室で学習を行っている。そのため、朝の会は学習室と2名のベッドサイドの3カ所をiPadで繋ぎ、双方向同時中継をしながら行っている。2名ともiPadからの音声や映像を楽しみにしており、iPadが繋がると覚醒状態が良くなり、手を動かしたり画面に注目したりして関心をもって参加している。また他の4名の中には、視覚からの情報収集が難しかったり音に過敏で不安定になったりする生徒もいるが、この4ヵ月で友達に視線を向けたり、教師の促しに応じて友達と教具をやり取りしたりする姿が少しずつ見られるようになってきている。

(2) 題材について

時間の前半は、各病棟からの移動（登校）、顔拭き、手洗い、水分補給、体操・マッサージ、朝の会の係活動の準備など、朝の活動として個々の実態に応じて個別に内容を設定している。この時間を通じて、教師は生徒と1対1のやり取りを通してその日の体調を確認し、それぞれの活動を通して病棟生活と学校生活の切り替えや学校の始まりを意識できるようにしたり、次の活動である朝の会へスムーズに移行できるように心の安定を図ったりしている。

後半の朝の会は、年間を通して毎日同じ時間に同じメンバーと同じ流れで行う。そのため、関わる人や活動の流れに見通しをもちやすく、自分からの気持ちの発信が微細で他者と関わろうとする姿が少ない本グループの生徒たちにとって、比較的安心して参加できたり友達を意識したりしやすい時間となっている。また、個々の発達課題に合わせた係活動に繰り返し取り組むことで徐々にステップアップさせながら定着を図ることができる。そして、集団活動の中で自分の役割を果たすことで達成感を味わうことができると考える。

そこで、本グループの朝の会では、継続してステップアップを目指したい内容として呼名と係活動を中心に設定し、小集団の中で自分の力を発揮して称賛されることで集団の中の自分を意識できるようにしたい。また、使用する教具の受け渡し場面を工夫することで友達を身近に感じたり、自分から関わろうとする気持ちを高めたりすることができるのではないかと考えた。

(3) 指導に当たって

- ・係活動では、取り組む意欲を高め、「できた」という達成感を味わえるように、生徒の興味・関心が高く得意な動作を生かした教材・教具を工夫する。
- ・選択した天気カードの情報を視覚的に捉えることが難しい生徒に対し、その日の天気イメージを皮膚感覚から感じ取れるように、天気ごとに感触が違う「お天気マスコット」を手渡す。また、そのマスコットを手渡しリレーすることで、天気イメージを全員で共有できるようにする。
- ・呼名の順番がきたことを意識できるように、差し棒をバトンとして受け渡す。
- ・コミュニケーションの基礎的な力である他者への興味関心や関わる力が高まるように、バトンを「渡す」「受け取る」という場面を積み重ねていき、相手への気付きを促していきたい。
- ・突然の音や音の重なりが苦手な生徒が安定して参加できるように、教師の声の大きさや重なりに配慮し、使用する音楽のボリュームは低めに設定する。
- ・3カ所で実施している生徒達の様子が互いに伝わりやすいように、T1はiPadを通して互いの様子を言葉で伝えたり、T2やT3が必要に応じて適宜iPadの位置を移動したりする。
- ・活動している友達を注目できるよう、場面に応じて友達が見えやすい方向に車椅子の向きを調整する。

4 指導計画

- ・「朝の活動・朝の会」（年間を通して実施）・・・総時数175時間（本時61／175）

※資料1：年間指導計画参照